



No.135

平成20年 3月25日発行

路材協会報

路面標示材協会

東京都千代田区神田佐久間町 2-13(深津ビル)

〒101-0025

Tel (03)3861-3656

Fax (03)3861-3605

目 次

年頭所感.....	副会長 高村 英二	1
会員・賛助会員紹介.....	事務局	3
路面標示用塗料の JIS 改正について.....	技術委員会	4
路面標示材協会のホームページ紹介.....	事務局	13
平成19年12月末の道路交通事故死者について.....	事務局	14
事務局便り・ 余滴		16



年 頭 所 感

副会長 高村 英二

旧年中は関係各位並びに会員の皆様より、格別のご支援、ご指導を賜りましたことに厚く御礼申し上げます。

さて新春を迎え、当協会に携わる者として今後の協会発展のために、なすべきことはいったい何か、稚拙ながら日頃からの考えを含め、一つの所感として述べたく思います。

昨年は、平成16年初頭からの原油高騰の影響で石油関連製品の急激な値上がりに翻弄された1年と言えます。

原油価格の有力な指標であるWTI価格は、平成16年1月の1バレル当り40.8ドルから平成19年11月94.6ドルまでと約2.3倍に高騰しており、100ドル突破も懸念される状況となっています。特に昨年1年間の値上がりは、過去平成16年1月から平成18年12月までの3年間の上昇分さえも大幅に超える状況となっており、その上昇傾向がより顕著なもので

あります。そして、今回の原油高から来る諸般の原料高は過去と異なり、中国をはじめとする海外の旺盛な原料需要増大を背景としており、この傾向は残念ながら本年も続き、歯止めがかからないものと想定されます。

当協会の道路用塗料におきましても主原料である、石油樹脂のほか、合成樹脂、各種顔料、添加剤等のすべての原料が大幅な値上がりとなっており、又一部添加剤等の原料においては、市況の悪化からくる原料集約による廃番、製造中止に追い込まれるものも出ている状況です。

特にその中で、溶融材の主原料である石油樹脂の値上がりは、数社しかない原料樹脂メーカーの1社がこの分野から撤退したこともあって、非常に顕著となっており、各路材メーカーのあらゆる合理化努力は一瞬のうちに水泡と化し、今後、適切な価格の見直しが図られなければ、まさにサバイバル状況へと推移していくのではないかと考えられます。

現在世の中の景気は、ごく一部の優良企業を除いて、その好況感は微塵も感じられず、特に、当協会が関わる建設業界は、公共工事の見直しからくる需要の激減、法令遵守、そしてこの数年の追い討ちをかけるような原料高と言ったいづれも抜き差しならない厳しい環境下に置かれています。

量から質への転換を言われて久しく、よりクオリティーの高いシステム、材料、サービスを追い求めることはいつの時代も変わらず、そのことで新たな展開が図られたきていますが、それは今後も変わる事のない事実といえます。

道路標示関係においてはこれまでに、ヒートスプレー、高視認性標示材、排水性舗装用標示材から現在の環境対応製品（水性塗料、無鉛化）と、時代の要請に応じた施工システム及び製品群を提供し、これからも引き続き様々な開発・改良が継続されるものと考えられます。しかし残念ながら、未だ市場拡大に大きく寄与できるまでの新たな施工システム、製品が出現してはいない状況と言えましょう。

平成20年度の国の道路関係予算は概算要求レベルで道路整備対前年106%、道路環境整備は同113%とプラスとなっており、基本方針にも『安全で安心できる暮らしの確保』、『環境の保全と豊かな生活環境の創造』と言った新規需要が期待される項目が掲げられています。最終の予算確定までは不透明ですが、当協会が寄与できる場面は増えつつあるとも推察されるので、今後の展開は如何に新たな提案ができるかどうかにか懸かっているとと言えます。

現在の車社会では、交通安全の関連で当協会は、なくてはならない存在であり、又、成果主義に基づいた真に有効な交通安全対策を提供し続ける責務があります。今こそ高い志を持って対応すれば、新たな需要を生み出すことは可能であり、この危機的状況を克服することができると考えられます。このニッチな又閉塞した市場において新たな需要を喚起するためには、当然のことながら従来と異なった視点での取り組みが必要であり、当協会の情報公開と協会それぞれが他業界との交流も含めて切磋琢磨し、この難局を打開していくことが最も重要と考えられます。従って、この数年は、まさに当協会並びに協会の真価が問われるといっても過言ではないと考えます。

以上、はなはだ抽象的な表現となり誠に恐縮ですが、私は当協会の一員として今後とも大いに尽力致しますとともに、この節目の平成20年が、新たな市場を創出できる萌芽を見つける1年となるよう祈願して、年頭の挨拶とさせていただきます。

最後に、関係各位並びに会員各社の益々のご繁栄とご健勝をお祈り申し上げます。

(神東塗料株式会社 道路施設事業部長)

本年もどうぞよろしく申し上げます。

会員会社

会社名	〒	住所	電話 (FAX)
アトミクス(株)	174-8574	東京都板橋区舟渡 3-9-6	03-3969-1552 (3968-7300)
大崎工業(株)	593-8311	大阪府堺市上 89 番地	072-272-1453 (274-1810)
(株)キクテック	457-0836	愛知県名古屋市中区加福本通1-26	052-611-0680 (613-3934)
信号器材(株)	211-8675	神奈川県川崎市中原区市ノ坪 160	044-411-2191 (422-1543)
神東塗料(株)	136-8611	東京都江東区新木場 4-12-12	03-3522-2353 (3522-2365)
積水樹脂(株) 都市環境事業本部	105-0022	東京都港区海岸 1 丁目 11 番 1 号 (ニューピア竹芝ノースタワー5階)	03-5400-1846 (5400-1804)
太洋塗料(株)	144-0033	東京都大田区東糀谷 6-4-18	03-3745-0111 (3743-9161)
(株)トウベ	592-8331	大阪府堺市築港新町 1-5-11	072-243-6419 (243-6466)
日本ライナー(株)	135-0047	東京都江東区富岡 2-1-9 (NV 富岡ビル 3F)	03-5646-2314 (5646-2318)
日立化成工材(株)	317-0051	茨城県日立市滑川町本町 5-12-15	0294-22-1313 (21-7748)
富国合成塗料(株)	652-0816	兵庫県神戸市兵庫区永沢町 3-7-19	078-575-6600 (575-6637)
藤木産業(株)	592-8331	大阪府堺市西区築港新町 2-6-50	072-244-5588 (244-6639)
レーンマーク工業(株)	731-1142	広島県広島市安佐北区安佐町 大字飯室字森城 6864	082-835-2511 (835-2513)

賛助会員会社

会社名	〒	住所	電話 (FAX)
日本ガラスビーズ協会	103-8321	東京都中央区日本橋室町 3-4-4 (JPビル) ユニチカ(株)東京本社内	03-3246-7754 (3246-7756)
日本ゼオン(株)	100-8246	東京都千代田区丸の内 1-6-1 (新丸の内センタービルディング)	03-3216-2342 (3216-0504)
東邦顔料工業(株)	174-0043	東京都板橋区坂下 3-36-5	03-3960-8681 (3960-8684)
エクソンモービル(有)	108-8000	東京都港区港南 1-8-15 (Wビル)	03-6713-4011 (6713-4061)
キクチカラー(株)	115-0051	東京都北区浮間 5-3-33	03-5916-2881 (3965-8156)
大日本インキ化学工業(株)	103-8233	東京都中央区日本橋 3-7-20	03-3278-0122 (3273-7853)
(株)エヌ・アイ・シー	541-0041	大阪府大阪市中央区北浜 2-3-6 (北浜山本ビル 7 階)	048-662-6855 (662-6866)
丸善油化商事(株)	104-0032	東京都中央区八丁堀 2-25-10 (三信八丁堀ビル)	03-3551-1647 (3551-1426)
大日精化工業(株)	103-8383	東京都中央区馬喰町 1-7-6	03-3662-4273 (3669-3936)

路面標示用塗料の JIS 改正について

(JIS K 5665 : 2008)

路面標示材協会 技術委員会

1. まえがき(当該 JIS のこれまでの経緯)

JIS K 5665 (路面標示用塗料) は道路の区画線、道路標示に用いられる塗料に関する規格である。

それまでであった昭和 26 年 (1951 年) 制定の JIS K 5491 [トラフィックペイント (常温用)] および昭和 46 年 (1971 年) 制定の JIS K 5665 [トラフィックペイント (溶着用)] に加え、昭和 40 年制定の日本道路公団規格(トラフィックペイント加熱用) も入れ一括再編成を行い、路面標示用塗料に関する統一規格の JIS K 5665 (トラフィックペイント) としたものである。この規格は昭和 56 年 (1981 年) に新たに制定されたものであって、その後、昭和 62 年 (1987 年) に全体の見直しが行われて、規格の名称及び内容の一部が改正された。また、平成 4 年 (1992 年) には JIS K 5400 (塗料一般試験方法) の改正に伴う整合性や視認性の向上に対する検討、内容の見直しが行われ改正された。さらに、平成 11 年 4 月には、JIS K 5400 (塗料一般試験方法)、JIS K 5407 (塗料成分試験方法)、JIS K 5410 (塗料用試験板)、JIS K 5500 (塗料用語) が国際整合化されて、JIS K 5600 (塗料一般試験方法) 及び JIS K 5601 (塗料成分試験方法) が新たに制定されたので、これらを製品規格に反映させるため、旧規格の品質基準を維持したまま国際整合化された試験方法による見直しが行われ、平成 14 年 (2002 年) に改正され現在までに至っている。

さて、今回の主な改正は、揮発性有機化合物 [Volatile Organic Compound (VOC)] 発生を大幅に削減した水系路面標示用塗料の規格を追加したことである。ここでいう「水系路面標示用塗料」は「水性路面標示用塗料」と同義語として扱っており、VOC の含有量は 5% 以下を基準としている。水系路面標示用塗料の規格を追加した背景には次のことが掲げられる。

平成 18 年 4 月に改正大気汚染防止法が施行され、光化学オキシダントの発生原因のひとつである VOC の排出濃度が規制されることとなった。塗料において、VOC は有機溶剤が該当し溶剤系塗料に多量に使用される。有機溶剤はその大半が塗装後大気に排出されている。その対策として有機溶剤を含有しない無溶剤系、水等の有機溶剤以外の媒体を使用した非溶剤系、有機溶剤の含有量が少ない低溶剤系の塗料が市場から望まれている。一方、路面標示用塗料は、道路交通法に定められた路面標示を目的とした塗料であり、多くは現場塗装で使用されるため、改正大気汚染防止法の規制対象とはならない場合が多いが、グリーン調達等の観点から低 VOC 塗料が望まれている。そこで今回、路面標示用塗料の規格に水系塗料を加え、路面標示用塗料の中から VOC の少ない塗料の選択を可能にしたところである。

本稿では、今回の路面標示用塗料の JIS 改正について、その改正点を以下に説明する。

2. 改正の主な内容

2.1. 路面標示用塗料の種類追加

1種および2種に水系路面標示用塗料が追加された。従来の1種および2種の定義は「着色顔料、体質顔料及び合成樹脂ワニスを主な原料として、これらを十分に練り合わせた液状塗料。」とされていたが、1種、2種のそれぞれに水を主な揮発成分とするビヒクルを用いる「A」と、有機化合物を主な揮発成分とするビヒクルを用いる「B」に、細分化された。

JIS改正前の種類を表-1に、改正後の種類を表-2に示す。

表-1 JIS改正前の種類

種類	塗料の状態と施工の条件	
1種	液状で、塗料中にガラスビーズを含まず、常温で施工する。	
2種	液状で、塗料中にガラスビーズを含まず、加熱して施工する。	
3種	1号	粉体状で、塗料中にガラスビーズを15～18%(質量%)含み、熔融して施工する。
	2号	粉体状で、塗料中にガラスビーズを20～23%(質量%)含み、熔融して施工する。
	3号	粉体状で、塗料中にガラスビーズを25%以上(質量%)含み、熔融して施工する。

表-2 JIS改正後の種類

種類	塗料の状態及び施工の条件	
1種	A	水を主な揮発成分とするビヒクルを用い、塗料中にガラスビーズを含まず、常温で施工する液状塗料。
	B	有機化合物を主な揮発成分とするビヒクルを用い、塗料中にガラスビーズを含まず、常温で施工する液状塗料。
2種	A	水を主な揮発成分とするビヒクルを用い、塗料中にガラスビーズを含まず、加熱して施工する液状塗料。
	B	有機化合物を主な揮発成分とするビヒクルを用い、塗料中にガラスビーズを含まず、加熱して施工する液状塗料。
3種	1号	塗料中にガラスビーズを15%～18%(質量分率)含み、熔融して施工する粉体状塗料。
	2号	塗料中にガラスビーズを20%～23%(質量分率)含み、熔融して施工する粉体状塗料。
	3号	塗料中にガラスビーズを25%以上(質量分率)含み、熔融して施工する粉体状塗料。

2.2. 試験項目の追加

水系路面標示用塗料が追加されたことにより、「低温造膜性」、「低温安定性」の試験項目が新たに規定された。

水系塗料は低温時において、塗膜形成が十分に起こらず設計された塗膜性能が得られない場合があるため、「低温造膜性」の試験が追加された。また、塗料中に水が含有されており、0℃以下の低温においては塗料が凍結する場合がある。塗料によっては一度凍結した塗料を標準状態に戻しても均一な状態とならない、または正常な塗膜が得られない場合があるため、「低温安定性」の試験が追加された。

2.3. ガラスビーズの外観・形状

3種の「ガラスビーズの外観・形状」は、夜間視認性を維持するためには、使用するガラスビーズの外観や形状が重要であるとして、JIS R 3301（路面標示塗料用ガラスビーズ）に規定するガラスビーズの品質内容を直接確認することを目的として、1992年の改正から試験項目として追加された。3種の路面標示用塗料の製造において、原料の運搬時や塗料製造時の攪拌・混合等の機械的衝撃により、ガラスビーズの外観・形状が変化することが懸念されたため制定された。

今回の改正においては、ガラスビーズの受け入れ時と塗料製造後で外観・形状がどの程度変化したかを検証するため、路面標示材協会会員会社13社中6社について調査を実施した。試験方法はJIS R 3301 ガラスビーズの品質の外観・形状の試験項目に準拠して行った。

各ロットにおいて、納入したガラスビーズの外観・形状の数値と塗料製造後の塗料中に含有する数値の差を求め、標準偏差を計算した。

試験結果を表-3に示す。会社による標準偏差のばらつきは多少あるが、全て2以下の数値の範囲である。納入されたガラスビーズの外観・形状の数値は13～15%であり、標準偏差を考慮しても規格値の「20%以下」を充分満足する結果が得られ、製造時においてガラスビーズの外観・形状が変化しないことが確認できた。

各社のプラントの設備は同様な分散機を使用していること、および1992年からの公的機関の分析結果で規格から外れたことがないことから、今回の測定結果が他の会社にも適用できると判断した。

従って、ガラスビーズはJIS R 3301の1号の品質のものを使用すれば、3種の試験項目から削除できると判断した。

表-3 ガラスビーズの外観・形状の試験結果

調査会社	①	②	③	④	⑤	⑥
製造ロット数	32	20	35	30	21	20
(A-B)の標準偏差	0.69	1.50	1.58	1.40	0.96	1.35

A：納入されたガラスビーズの外観・形状の数値

B：塗料製造後の塗料中に含有するガラスビーズの外観・形状の数値

2.4. 反射率測定装置及び分光測定機の光源

8.13 隠ぺい率, 8.14 拡散反射率, 8.15 にじみ, 8.16 黄色度の測定に用いる反射率測定装置及び分光測光器の光源を, JIS Z 8720:2000 の4.3.2に規定する補助イルミナントCに指定した。

2.5. ガラスビーズ含有量の試験

従来の塗料では, 骨材は炭酸カルシウムが主体であり, 8.24 ガラスビーズ含有量の試験では, 塩酸に溶解するためガラスビーズのみが残留した。しかし, 最近では処理の過程でガラスビーズと共に塩酸に溶解しない骨材(セラミック, けい石)が残留する可能性が出てきたため, 操作方法来に骨材の選り分けを明記した。

2.6. 新・旧 JIS 項目の変更点に関する対比

JIS 改正に伴う新 JIS (2008 年) と旧 JIS (2002 年) の品質項目における変更点の対比を表-4に示す。

2.7. その他の改正点

- (1) 品質一覧表の評価のコメントを見直し, 変更した。
- (2) 屋外暴露耐候性の試験は, 本文中から削除し, 附属書(規定)によるとした。
- (3) 旧規格の本文末尾の参考1.は特に明記する必要がないので削除した。
- (4) 旧規格の文中の誤記, 脱落箇所については修正, 補足を行った。

3. 路面標示用塗料の品質

今回規定された路面標示用塗料の1種及び2種の品質を表-5に, 3種の品質を表-6に示す。

4. 今後の対応と適用について

- (1) 塗料の性能表, 試験成績表(公的機関の証明書を含む)などは, 本年4月以降に新 JIS (2008 年) に基づくように切り替える。
水系路面標示用塗料(JIS K 5665 1種 A 及び2種 A)についても, 本年4月以降から新 JIS (2008 年) で運用するが, 本年4月の公的機関の試験成績表は, 判定欄を設けな
いで対応する。
- (2) 各発注期間の仕様書, 規格などは当該発注機関において今後, 逐次変更されるものと判断する。

付記(参考)

JIS K 5665 の品質の規定に示された項目の試験に必要な試験板の材質, 寸法および枚数, 並びに試験日数については, 1種および2種の場合は参考表-1に, 3種の場合は参考表-2にそれぞれ示す。

(文責 技術委員長 小川博巳)

表-4 品質項目における変更点

項 目	種 類					備 考
	1 種		2 種		3 種	
	A	B	A	B		
加熱安定性	-	-	安定である。		-	評価コメントを変更。
塗膜の外観	正常である。					評価コメントを変更。
低温造膜性 (5℃)	塗膜形成に異常がない。	-	塗膜形成に異常がない。	-	-	水系路面標示用塗料が追加されたことにより新設。
低温安定性 (-5℃)	変質しない。	-	変質しない。	-	-	水系路面標示用塗料が追加されたことにより新設。
タイヤ付着性	タイヤに付着しない					評価コメントを変更。
にじみ	白	にじみがない。			-	評価コメントを変更。
	黄	にじみがない。			-	評価コメントを変更。
耐摩耗性 (100回転について)	摩耗減量 500mg 以下である。				摩耗減量 200mg 以下である。	評価コメントを変更。
耐水性	異常がない				-	評価コメントを変更。
耐アルカリ性	異常がない					評価コメントを変更。
ガラスビーズ付着性	塗膜にむらなく付着する。				-	評価コメントを変更。
ガラスビーズの外観・形状	-	-	-	-	削除	品質規格の試験項目から削除。
屋外暴露耐候性	-	-	-	-	割れ、はがれ及び色の変化の程度が大きくない。	評価コメントを変更。

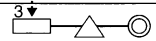
表一5 路面標示用塗料1種及び2種の品質

項 目	種 類				試験 箇条 番号
	1 種		2 種		
	A	B	A	B	
容器の中の状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなく、一様になる。				8.4
密度 (23℃) g/cm ³	1.3 以上				8.5
粘度 KU 値	70 ~ 100		90 ~ 130		8.6
加熱安定性	-		安定である。		8.7
塗膜の外観	正常である。				8.9
低温造膜性 (5℃)	塗膜形成に異常がない。	-	塗膜形成に異常がない。	-	8.10
低温安定性 (-5℃)	変質しない。	-	変質しない。	-	8.11
タイヤ付着性	タイヤに付着しない。				8.12
隠ぺい率 %	白	97 以上			8.13
	黄	80 以上			
拡散反射率 (白に限る) %	80 以上				8.14
にじみ	白	にじみがない。			8.15
	黄	にじみがない。			
耐摩耗性 (100 回転について)	摩耗減量 500 mg 以下である。				8.17
耐水性	異常がない。				8.19
耐アルカリ性	異常がない。				8.20
加熱残分 (質量分率%)	60 以上		65 以上		8.21
ガラスビーズ付着性	塗膜にむらなく付着する。				8.22
ガラスビーズ固着率 %	90 以上				8.23

表一 6 路面標示用塗料 3 種の品質

項 目	種 類			試験 箇条 番号
	3 種			
	1 号	2 号	3 号	
密度 (23℃) g/cm ³	2.3 以下			8.5
軟化点 ℃	80 以上			8.8
塗膜の外観	正常である。			8.9
タイヤ付着性	タイヤに付着しない。			8.12
拡散反射率 (白に限る。) %	75 以上			8.14
黄色度 (白に限る。)	0 ~ 0.10			8.16
耐摩耗性 (100 回転について)	摩耗減量が 200 mg 以下である。			8.17
圧縮強さ (23 ℃) kN/cm ²	0.802 以上			8.18
耐アルカリ性	異常がない。			8.20
ガラスビーズの含有量 %	15 ⁺³ / ₀	20 ⁺³ / ₀	25 以上	8.24
屋外暴露耐候性	割れ、はがれ及び色の変化の程度が大きくない。			8.25

参考表－1 路面標示用塗料 1種及び2種の場合

項目番号	項目	試験版			試験日数(日)									
		材質	寸法(mm)	枚数(枚)	1	2	3	4	5	6	7	8以上		
8.4	容器の中の状態	-			◎									
8.5	密度	-			×-◎									
8.6	粘度	-			×-◎									
8.7	加熱安定性	-												
8.9	塗膜の外観	アスファルトフェルト	170×150	試料1 見本1	×-◎ 約24	◎								
8.10	低温造膜性(5℃)	ガラス板	200×100×2	1	×-◎ 24	◎								
8.11	低温安定性(-5℃)	アスファルトフェルト	170×150	1	× △ 18	△ 6 △ 18	△ 6 △ 18	△ 6 ◎ 24	◎					
8.12	タイヤ附着性	ガラス板	200×100×2	1	×-◎ 15分 △ ◎ ×-◎ 10分 △ ◎	(1種の場合) (2種の場合)								
8.13	隠ぺい率	ガラス板	200×100×2	1	×-◎ 約24	△ ◎								
8.14	拡散反射率	ガラス板	200×100×2	1	×-◎ 約24	△ ◎								
8.15	にじみ	アスファルトフェルト	170×150	1	×-◎ 約24	△ ◎								
8.17	耐摩耗性	鋼板	100×100×1	3	×-◎ 1 24	△ ◎								
8.19	耐水性	ガラス板	150×70×2	原状試験片1 試験片2	×-◎	72	△ 24	△ ◎ ² ◎						
8.20	耐アルカリ性	ガラス板	150×70×2	原状試験片1 試験片2	×-◎	72	△ 18	△ ◎ ² ◎						
8.21	加熱残分	-	-	-	×-△ 3 △ ◎									
8.22	ガラスビーズ附着性	ガラス板	430×170×3	1	×-◎ 1	◎								
8.23	ガラスビーズ固着性	-	-	-	↓	72	△ △ ◎							

注記 1. 記号の説明 ×: 試料のサンプリング ○: 塗り付け ◎: 判定 —: 放置 □: 加熱: 試験片の共用 △: その他の操作
 2. 試験日数欄の数字は, 時間 (h) を示す。

参考表-2 路面標示用塗料 3種の場合

項目 番号	項目	試験版			試験日数(日)									
		材質	寸法(mm)	枚数(枚)	1	2	3	4	5	6	7	8以上		
8.5	密度	-	-	-	×—□—△—○									
8.8	軟化点	-	-	-	×—□—△—△—○									
8.9	塗膜の外観	アルミニウム板	150×70×1.5	試料1 見本1	×—□—○ ¹ —○									
8.12	タイヤ付着性	鋼板	300×150×1.6	1	×—□—○ ^{3分} —△—○									
8.14	拡散反射率	アルミニウム板	150×70×1.5	1	×—□—○ ¹ —△—○									
8.16	黄色度	アルミニウム板	150×70×1.5	1	△—○									
8.17	耐摩耗性	(鋼板)	(110×110×1)	3	×—□—△—△—○									
8.18	圧縮強さ	-	-	3	×—□—△ ^{18以上} —○									
8.20	耐アルカリ性	-	-	原状試験片1 試験片2	×—□—△ ¹⁸ —○									
8.24	ガラスビーズの含有量	-	-	-	×—△ ¹ —□—△—○									
8.25	屋外暴露耐候性	アスファルトブロック	180×180×30	試料・見本品 計6	×—○—○ ^{7日~14日} —△ ^{12か月} —△—○									

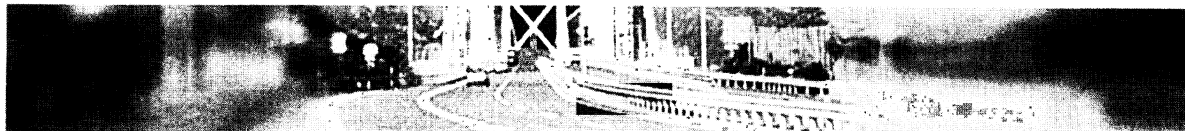
注記1. 記号の説明 ×: 試料のサンプリング ○: 塗り付け ◎: 判定 —: 放置 □: 加熱: 試験片の共用 △: その他の操作
 2. 試験日数欄の数字は、時間 (h) を示す。

路面標示材協会のホームページ紹介

アドレス：<http://www.rozaikyo.com/index.html>

ヤフー、グーグルにて路面標示材協会で検索してください。

人と車の安全をめざして



ホーム 概要 会員 出版物 製品と環境 統計 技術資料 リンク



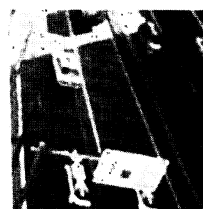
概要



会員



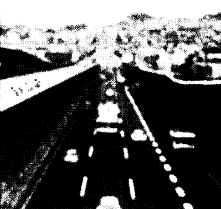
出版物



製品と環境



統計



技術資料



リンク

WHAT'S NEW

- ・路面標示材協会平成19年度運営計画
- ・環境対応型路面標示用塗料(無鉛塗料)試験施工報告(建設資材情報2007/2)



路面標示材協会

平成19年12月末の道路交通事故死者数について

(警視庁交通局交通企画課資料より)

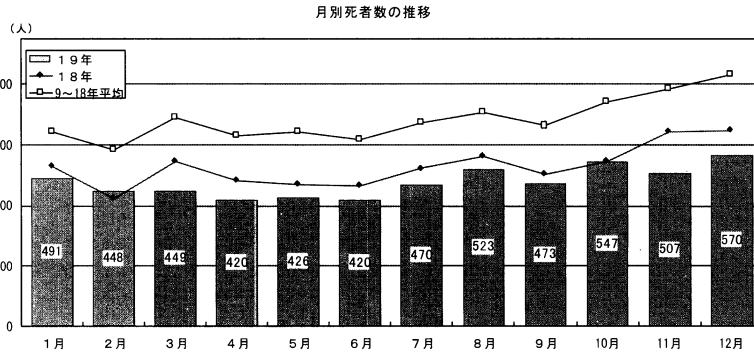
事務局

1 平成19年12月中の交通事故発生状況

12月中に発生した交通事故は、

○ 発生件数 (計上数)	75,845件	(1日平均	2,447件)
	前年同期比	-7,948件	(-9.5%)
うち死亡事故件数 (計上数)	556件	(1日平均	17.9件)
	前年同期比	-77件	(-12.2%)
○ 死者数 (計上数)	570人	(1日平均	18.4人)
	前年同期比	-78人	(-12.0%)
○ 負傷者数 (計上数)	92,881人	(1日平均	2,996人)
	前年同期比	-9,847人	(-9.6%)

で、前年同期と比較すると、発生件数、死者数、負傷者数のいずれも減少している。



2 平成19年12月末の交通事故発生状況

12月末までに発生した交通事故は、

○ 発生件数 (計上数)	832,454件	(1日平均	2,281件)
	前年同期比	-54,410件	(-6.1%)
うち死亡事故件数 (計上数)	5,587件	(1日平均	15.3件)
	前年同期比	-560件	(-9.1%)
○ 死者数 (計上数)	5,744人	(1日平均	15.7人)
	前年同期比	-608人	(-9.6%)
○ 負傷者数 (計上数)	1,034,445人	(1日平均	2,834人)
	前年同期比	-63,754人	(-5.8%)

で、前年同期と比較すると、発生件数、死者数、負傷者数のいずれも減少している。

都道府県別交通事故発生状況(計上数)

12月末

管区	都道府県	発生件数			重傷者数			負傷者数			
		増減数	増減率		増減数	増減率		増減数	増減率		
北海道	札幌	15,671	-2,548	-14.0	1,268	-132	-9.4	19,206	-3,571	-15.7	
	函館	2,056	-213	-9.4	168	-22	-11.6	2,583	-259	-9.1	
	旭川	2,558	-314	-10.9	271	-36	-11.7	3,203	-320	-9.1	
	釧路	2,314	-279	-10.8	326	-16	-4.7	2,883	-359	-11.1	
	北見	983	-31	-3.1	155	-10	-6.1	1,329	17	1.3	
	計	23,582	-3,385	-12.6	2,188	-216	-9.0	29,204	-4,492	-13.3	
東	青森	6,856	-583	-7.8	431	31	7.8	8,643	-782	-8.3	
	岩手	5,369	-47	-0.9	790	22	2.9	6,713	-40	-0.6	
	宮城	12,803	-829	-6.1	962	-97	-9.2	16,347	-925	-5.4	
	秋田	4,365	-355	-7.5	473	-28	-5.6	5,534	-343	-5.8	
	山形	8,411	-447	-5.0	635	-13	-2.0	10,785	-374	-3.4	
	福島	12,744	-883	-6.5	1,293	-175	-11.9	16,245	-1,108	-6.4	
	計	50,548	-3,144	-5.9	4,584	-260	-5.4	64,267	-3,572	-5.3	
東	東京	68,603	-5,684	-7.7	762	-94	-11.0	77,652	-6,465	-7.7	
	茨城	20,415	-1,981	-8.8	1,842	-127	-6.4	26,710	-2,551	-8.7	
	栃木	13,693	-1,318	-8.8	1,083	-100	-8.5	17,618	-1,776	-9.2	
	群馬	21,649	-1,109	-4.9	597	-117	-16.4	27,273	-1,547	-5.4	
	埼玉	44,820	-3,439	-7.1	4,237	-447	-9.5	54,874	-4,553	-7.7	
	千葉	31,161	-2,673	-7.9	2,973	-168	-5.3	39,117	-3,385	-8.0	
	神奈川	50,450	-4,112	-7.5	2,072	-176	-7.8	60,084	-5,620	-8.6	
	新潟	12,791	-1,112	-8.0	1,787	-80	-4.3	15,903	-1,499	-8.6	
	山梨	6,992	-90	-1.3	597	-19	-3.1	9,275	-112	-1.2	
	長野	12,471	-650	-5.0	1,213	-82	-6.3	16,128	-980	-5.7	
	静岡	38,682	-809	-2.0	2,275	-48	-2.1	49,770	-1,229	-2.4	
		計	253,124	-17,293	-6.4	18,676	-1,364	-6.8	316,752	-23,252	-6.8
	中	富山	6,996	-312	-4.3	725	-23	-3.1	8,283	-438	-5.0
		石川	7,438	-510	-6.4	562	-107	-16.0	9,230	-634	-6.4
福井		4,658	-22	-0.5	537	1	0.2	5,742	-100	-1.7	
岐阜		13,080	-801	-5.8	1,125	-2	-0.2	17,877	-914	-4.9	
愛知		55,604	-2,401	-4.1	1,971	294	17.5	68,241	-2,902	-4.1	
三重		12,790	-333	-2.5	1,351	98	7.8	16,957	-653	-3.7	
計		100,566	-4,379	-4.2	6,271	261	4.3	126,330	-5,641	-4.3	
近	滋賀	9,626	-379	-3.8	808	-81	-9.1	12,720	-433	-3.3	
	京都	17,094	-1,252	-6.8	2,161	-221	-9.3	20,655	-1,719	-7.7	
	大阪	59,060	-3,773	-6.0	4,710	-162	-3.3	70,914	-4,570	-6.1	
	兵庫	38,551	-2,726	-6.6	3,943	-227	-5.4	47,440	-3,451	-6.8	
	奈良	7,522	-541	-6.7	746	-46	-5.8	9,680	340	3.6	
	和歌山	7,785	-318	-3.9	974	-405	-29.4	9,625	-381	-3.8	
	計	139,638	-8,989	-6.0	13,342	-1,142	-7.9	171,034	-10,214	-5.6	
中	鳥取	2,539	-339	-11.8	326	-54	-14.2	3,236	-462	-12.5	
	島根	2,676	-104	-3.7	95	7	8.0	3,089	-109	-3.4	
	岡山	19,265	-859	-4.3	1,320	-45	-3.3	24,579	-1,081	-4.2	
	広島	19,819	-1,141	-5.4	2,247	-159	-6.6	24,961	-1,477	-5.6	
	山口	8,939	-250	-2.7	821	-36	-4.2	10,923	-331	-2.9	
	計	53,238	-2,693	-4.8	4,809	-287	-5.6	66,788	-3,460	-4.9	
四	徳島	6,251	-243	-3.7	640	-113	-15.0	7,729	-429	-5.3	
	香川	12,243	-659	-5.1	399	-122	-23.4	15,284	-1,026	-6.3	
	愛媛	10,262	-619	-5.7	1,229	83	7.2	12,393	-931	-7.0	
	高知	4,563	-268	-5.5	639	-80	-11.1	5,371	-331	-5.8	
	計	33,319	-1,789	-5.1	2,907	-232	-7.4	40,777	-2,717	-6.2	
九	福岡	45,703	-5,187	-10.2	1,875	406	27.6	60,129	-1,517	-2.5	
	佐賀	8,906	-26	-0.3	276	64	30.2	11,958	-7	-0.1	
	長崎	7,938	-237	-2.9	715	-85	-10.6	10,304	-258	-2.4	
	熊本	12,091	-969	-7.4	1,481	-105	-6.6	15,524	-1,312	-7.8	
	大分	7,327	-313	-4.1	731	6	0.8	9,646	-420	-4.2	
	宮崎	9,820	-270	-2.7	412	-55	-11.8	12,167	-318	-2.5	
	鹿児島	11,526	76	0.7	1,205	56	4.9	14,061	110	0.8	
	沖縄	6,525	-128	-1.9	776	-65	-7.7	7,852	-219	-2.7	
	計	109,836	-7,054	-6.0	7,471	222	3.1	141,641	-3,941	-2.7	
	合計	832,454	-54,410	-6.1	61,010	-3,112	-4.9	1,034,445	-63,754	-5.8	

注1 計上数とは、1～12月中に交通事故として警察庁交通事故情報管理システムに計上された数値である。

2 増減数(率)は、前年同期計上数との比較である。

事務局便り

1. 平成 19 年度路面標示用塗料の需要調査に関する報告会が 11 月 8 日・名古屋・キャッスルプラザホテルで行われ、業務委員会より理事会に内容説明が行われました。

報告会終了後、同ホテルにて、正会員、賛助会員出席のもと懇親会を開催しました。

2. 会員の異動

(1) 正会員

○積水樹脂(株)の理事が、今津隆二氏から吉川 治(企画担当課長)氏に代わりました。(4月)
また 10 月に都市環境事業本部の事務所が(〒105-0022 東京都港区海岸 1-11-1 ニューピア竹芝ノースタワー 5 階)に移転されました。

○富国合成塗料(株)の理事が小西陽氏から小西一功氏(営業課長)に代わりました。(7月)

(2) 賛助会員

○大日本インキ化学工業(株)の当協会窓口が、古川 誠氏から高家久明氏(塗料・プラスチック東日本担当課長)に代わりました。(5月)

3. 委員会活動

○業務委員会

- ・無鉛黄色塗料の各社の製品・価格が、「建設資材情報」に掲載されています。
- ・ホタテ貝殻入り路面標示塗料の各社製品・価格が「建設物価」の 6 月号から 3 社掲載されており、11 月号では 4 社が掲載されました。

○技術委員会

- ・新しい JIS K 5665 の改正に関する審査が 9 月に経済産業省で行われ、20 年 3 月公示になりました。

余滴

日本の経済は平成 20 年度は、約 2%強のプラス成長が予想されています。(民間調査機関)
しかしながら、昨年来の原油価格の高騰は、各種原材料の高騰への影響だけでなく、日本経済活動にたいする重要な懸念材料で、今後も原油高が続くことが予測され、大変厳しい状況下にあります。

また同時に、これからの社会環境に合わせ「高齢化社会」「環境保全」をより重視した、効果的な交通安全対策、安全施設の一層の充実化が望まれています。

このような状況のもと、我々は、当協会活動である、交通環境への安全・安心のための「いつも、良く見える路面標示(路面標示のワイド化、高視認性化など)」の設置促進とともに、今後とも絶ゆまない品質向上を図ることにより、交通安全に貢献して参りたいと思います。

路面標示材協会 TEL: 03-3861-3656 FAX: 03-3861-3605